

《担当者名》 塚本 容子[yokot88@hoku-i-ryo-u.ac.jp]  
 濱田 淳一[jun1hamada@hoku-i-ryo-u.ac.jp]  
 小林 正伸[mkobaya@hoku-i-ryo-u.ac.jp]

【概要】

感染症看護の基本となる微生物学・感染症学・免疫学について学習する

【学修目標】

- 1) 感染症学の基礎となる免疫学・微生物学・感染症学の基礎を習得する
- 2) 主要な感染症の診断と治療について理解する
- 3) 易感染状態にある患者の日和見感染症の病態、予防、治療について理解する
- 4) PBL (Problem Based Learning) により感染症を持つ患者の事例を検討することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 2	免疫学概論	免疫学の基礎：免疫の定義、自然免疫と獲得免疫、免疫反応、液性と細胞免疫について学修する	濱田 淳一
3 ) 4	微生物学概論	感染症を理解するために必要な微生物学の基礎を学修する	小林 正伸 塚本 容子
5 ) 6	感染症学概論	感染症におけるPathogenicity, Virulence, Colonizationの概念を理解する	塚本 容子
7 ) 8	感染症学各論：母性・小児によく見られる感染症における病態・アセスメント・治療	1) 母子感染 2) 小児ウイルス疾患 など	塚本 容子
9 ) 10	感染症学各論：成人・高齢者によく見られる感染症における病態・アセスメント・治療	1) 呼吸器感染症（肺炎・結核） 2) 尿路感染 など	塚本 容子
11	感染症学各論：性感染症の病態・アセスメント・治療	1) HIV 2) 梅毒 3) 淋病・クラミジア	塚本 容子
12	感染症学各論：ICUで問題となる感染症	ICUで最も問題となる敗血症の治療マシメントについて	塚本 容子
13	感染症学各論：易感染状態にある患者の病態・日和見感染症	易感染状態にある患者の病態生理、アセスメント、治療そして予防	塚本 容子
14 ) 15	PBLによる事例検討	感染症を持つ患者1例を取り上げ、微生物学的特徴、臨床的特徴、アセスメントのポイントそして治療についてプレゼンテーションを行う	塚本 容子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験（40%）、レポート（30%）、およびプレゼンテーション（30%）

【教科書】

1. Mandell, Douglas and & Benett 's (2016). Infectious Disease Essentials, 1ed, Elsevier

2. 平松 啓一（監修）(2015). 標準微生物学 第13版、医学書院

**【参考書】**

随時提示する。

**【学修の準備】**

事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと